

# 和牛だより

第40号

平成二十三年九月

発行者  
社団 全国和牛登録協会

京都市中京区鳥丸通御池上ル  
二条殿町五四六一二

## 新しい船出

会長 向井文雄

会員の皆さまには極めて先行き不透明な状況のなかで登録事業を通じての和牛の改良増殖、生産にご尽力いただきおりますことをお礼申し上げます。昨年の宮崎県における口蹄疫は、多くの関係者のご努力により二十九万頭にも及ぶ牛と豚の犠牲を払つての終息、清浄国への復帰を果たした安堵もつかの間、鳥インフルエンザの蔓延や新燃岳の噴火に加え、三月十一日の東日本大震災による未曾有の災禍と福島第一原子力発電所の大事故により日本列島には厚い暗雲が立ちこめております。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被害に遭われた多くの皆さまに心よりお見舞い申し上げ、ご健康を祈念しております。

一刻も早い復旧復興を願わざにはいられませんが、今般の大惨事は天災と人災の複合大災害であり、多くの方々が不条理な困難に直面しております。原発事故による災禍が人々の健康に及ぼす直接的な被害に加え、農水産物や

稻わら汚染に端を発する牛肉への不安など国産食品の安全安心へ及ぼす影響は計り知れず、不安を払拭し、安全を確保できる生産基盤環境の整備と安心の回復に向けて、国はじめ自治体はもちろん、関係者の観智を結集していくだくことをお願いしたいものです。和牛生産に係わる多くの関係者も安全な和牛肉を届けるべく誠実に取り組み、その声を多くの消費者に届ける必要があります。

汚染稻わら給与の問題では情報の発信の仕方、リスク管理の重要性がクローズアップされています。不安の心理というのは根深いもので、事態が起こってから「この程度の内部被爆はレントゲン一回分ですよ」と後付けの説明では、次に待ち受けているかもしれない災禍への不安は解消できません。私たちには計算できるリスクは受け入れられるのですが、不確実なリスクは不安として受け入れられないもので

玉かを当てれば和牛肉十キログラムが賞品としてもらえます。あなたならどちらの色を宣言しますか？ 当たる確率は実際にはどちらも同じなのです。が、実験では圧倒的に多くの人が赤玉を宣言します。赤玉は当たる確率が三分の一と分かっているので、当たらぬリスクを受け入れるのですが、黒玉の場合は外れる確率すら分からなかったり、受け入れられないものなのです。今般の原発事故は放射能被害の説明や収束へ向けての行程などいずれの局面を見ても一貫性がなく不確実な結果説明となつており、当たる確率の分からないくじ引きと同じような不安な状況におかれているわけです。リスク管理に当たつては的確な情報を発信するタイミングが重要になり、専門家の方々には客観的な立場からの確な説明をお願いし、国産の農産物への風評被害を最小限に抑えていただくよう強く要望していきたいものです。

◇ ◇ ◇  
登録協会は設立以来「信用は登録の生命なり」を基本理念として、家畜改良増殖法に規定される登録事業を行う公益法人（民法による社団法人）として六十年間以上にわたり和牛の生産経

個入つてある大きな甕があります。赤玉は三十個入つてることは分かつてあります。黒と黄色の玉の数は不明です。黒玉が五十九個で黄玉が一個かもしないし、その逆かもしれません。さて、一個甕から取り出し、赤玉か黒玉かを当てれば和牛肉十キログラムが賞品としてもらえます。あなたならどちらの色を宣言しますか？ 当たる確率は実際にはどちらも同じなのです。が、実験では圧倒的に多くの人が赤玉を宣言します。赤玉は当たる確率が三分の一と分かっているので、当たらぬリスクを受け入れるのですが、黒玉の場合は外れる確率すら分からなかったり、受け入れられないものなのです。今般の原発事故は放射能被害の説明や収束へ向けての行程などいずれの局面を見ても一貫性がなく不確実な結果説明となつており、当たる確率の分からないくじ引きと同じような不安な状況におかれているわけです。リスク管理に当たつては的確な情報を発信するタイミングが重要になり、専門家の方々には客観的な立場からの確な説明をお願いし、国産の農産物への風評被害を最小限に抑えていただくよう強く要望していきたいものです。

◇ ◇ ◇  
登録協会は設立以来「信用は登録の生命なり」を基本理念として、家畜改良増殖法に規定される登録事業を行う公益法人（民法による社団法人）として六十年間以上にわたり和牛の生産経営の安定のために登録事業を通じた育種改良を推進してまいりました。和牛の価値を一層高めるために、時代の変革に応じて登録規程や育種改良法を改正とともに、組織形態も変化してきました。平成二十年十二月、国は公益法人の制度改革にむけて「公益法人制度改定関連三法」を施行し、現在の協会のような特例民法法人は平成二十一年度には新制度の公益法人が一般法人、あるいは解散かという選択が求められています。平成二十一年度の第六十三回通常総会では、和牛の育種改良の技術者集団として発足した会員組織である登録協会としては公益法人認定を目指すという機関決定がなされました。その後、認定法に照らして公益性を加味した定款、支部や支所、委託団体などの設置規程、さらには財務にかかる諸規程を見直し、六月二十四日に開催されました第六十五回総会において承認をいただき、来年四月の公益認定に向けて内閣府に認定申請する運びとなりました。定款とともに、総会を構成する社員の新たな選挙規則も承認いただき、公益法人認定委員会にはその社員選挙規則に従つて選出された社員をもつて申請することになります。和牛を飼育する生産農家の同志的な組織から不特定多数への公益を求める法人となり、登録・検定事業により時代の求めに応じた和牛への育種改良をさらに推進し、「美味しくて安全安心」な和牛肉の持続的な供給に貢献することを目的に掲げています。も

もちろん、羽部初代会長が昭和三十八年に起草した「主体性を確立し自主的に運営する」という協会憲章の理念はますます重要な運営指針となります。

昨年から開始した系統再構築事業に加え、今年度からは系統の特徴を遺伝子レベルで明らかにして育種改良に活用するためにはDNAデータベースの構築事業を開始させていただきます。DNA（遺伝子）は生命現象、能力の発現をつかさどる設計図が書き込まれた青写真であり、協会の伝統である「血統・外貌・能力」を三本柱とした事業を補強して、遺伝的多様性を維持するための情報、より信頼性の高い登録事業のために欠かせない情報として、和牛を生産される皆さまが会員である登録協会において維持管理することが我が国と会員の財産である和牛の育種改良にとって不可欠の資産となります。データベースの整備により、個体識別や不良遺伝子の抑制・排除にも活用できるものであり、DNAサンプルの収集等に当たっては会員の皆さまや支部・支所ならびに関係諸機関のご協力をお願い申し上げなければなりませんが、会員の財産の保護であること理解していただきたいと思います。

家畜は人類の長い歴史のなかで「衣食住」に関わってきた伴侶であり、今日ではDNAに書き込まれた遺伝情報を用いて食料・医薬・工業などあらゆる分野へ活用されています。しかし、生命現象に肉薄する情報であるだけにその活用は充分に慎重でなければなりません。

ならないでしょう。近年はリーマンショックによる世界不況、原子力発電事故と様々な難題、災厄に見舞われますが、いざれも金融危機は金融工学、原発事故は核制御工学への過信が根底にあり、専門家が高度な専門知識を駆使し、経済効率重視で突き進んできた結果とも言えます。DNAの活用も生命工学という高度な技術体系の上に成り立っており、安全神話のもとでの猛進は避けねばならず、和牛の育種改良にもその当事者の関与が不可欠でしょう。

恐ろしげなことを強調したようですが、生活史に肉薄する身近な分子生物学に関する話題を紹介しましょう。われわれの祖先の食べ物や住居などの歴史的な変化は化石や遺跡などからうかがえるのですが、さて人類はいつから体毛が退化し（未だに大きな謎）、衣類を身にまとうようになったのか、といふ素朴な疑問です。古代の庶民の衣服を今に見せてくれるのは、一九九一年にオーストリアのチロル地方エツツ渓谷の氷河で発見された氷漬けの世界でもっとも古いミイラとして有名なアイスマンこと「オツツィー」でしょう。五千三百年前の青銅器時代の男性で、弓矢、斧、石の短剣、骨の錐等の武器や、素材は、鹿、熊、カモシカ、山羊、牛の毛や毛皮でできており、原始的な衣類の様式を窺えます（ちなみに、左肩を矢で射られ貫通して致命傷となつたようだ、現在も北イタリアの博物館

で対面することが可能です）。

人類の起源は、化石や遺伝子レベルの計算ではおよそ六百万年前にチンパンジーの祖先と分かれたと考えられていますが、現在のわれわれの直接の祖先である新人（クロマニヨン人など）は二十万年前に出現したといわれ、旧石器時代にはスペインのアルタミラ、フランスのラスコーの壁画には多数の野牛や馬、羊、鹿、イノシシが描かれています。恐らくこの頃以降には、現在でいう衣類らしきものを着ていたと思われます。さて、衣類の起源はどの程度古くまで遡るのでしょうか？ドイツの研究者が、子供の学校でシラミが流行っていることを聞き、シラミは人類の移動とともに広まったはずで、全身体毛で覆っていた先祖はアタマシラミだけで、衣類に付着するコロモジラミは人類が毛で覆われている時代にいなかつたはず、という仮説を立て、世界中からシラミを集めてDNAを調べ、シラミの系統樹を描き二種のシラミがいつ頃分かれたのかを研究しました。その結果、およそ七万二千年前ということが判明し、この頃に初めて人類は衣類を身にまとつたと推定される訳です。この年代は最終氷河期にあたり、しかもスマトラ島のトバ火山の大噴火によって地球の温度が数年にわたり数度低下した時期に一致しており、必要は発明の母の言葉通り、防寒上の必要性から衣類が発明され、後に人類がアフリカを出て、寒冷な北半球の広い地域に進出することができます。

優良和牛改良組合の 表彰について	
<b>① 分娩間隔実績値の部</b>	
組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。	「認定和牛改良組合および育種組合 表彰規程」ならびに和牛改良組合強化 委員会の推薦に基づき、平成二十二年 度の優良和牛改良組合の表彰を行いま した。
北海道 新ひだか町静内和牛生産 改良組合	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。
更別和牛改良組合	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。
島根県 岐阜県 兵庫県	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。
佐賀県 長崎県	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。
宮崎県 鹿児島県	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。
太良町和牛改良組合 小値賀町和牛改良組合	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。
鷹島町和牛改良組合 宇久町和牛改良組合	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。
国富町和牛改良組合 根占町和牛改良組合	組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の 平均値が全国の上位十五組合について 表彰を行いました。表彰組合は以下の 通りです。

たのかもしれません。DNA配列は生命的の設計図であり、生物の進化の過程や系統関係を明らかにしろくれます。和牛DNAデータベースの構築はこのような特性を生かして育種改良に活用し、系統分類や再構築に役立てていこうという狙いがあるわけです。

情報を作り出すも殺すも、目的を立て、

それに向かって活用する熱意にかかる

ているわけです。

## ◆ ◆ ◆

新たな公益法人への移行は新たな組織

の枠組みを目指しての新たな船出にな

りますが、「仏作つて魂入れず」で

は協会を作り育ってきた先人に申し訳

が立ちません。和牛は改良和種から新

たな第一歩を踏み出して以来、およそ

二十年おきに農用牛、役肉用牛から肉

用牛、さらなる肉質の改良とその用途

の変更を余儀なくされました。いざ

れのハーダルをも乗り越え今や世界に

誇る「Wagyū」にまで歩みを進め

てきました。登録区分や登録審査標準

の改正、産肉能力検定法の導入、育種

価情報の活用など時代に応じて和牛の

改良に当たつてきましたが、その一つ

の原動力は昭和四十一年に岡山県で

開催された全国和牛能力共進会の開

催であります。以来、第九回鳥取全共

にいたるまで、集団的な育種改良事業

の展開のために群出品区、産肉能力や

検定法の実証として産肉能力検定区や

若雄後代検定群、総合評価群、系統再

構築を狙った系統雌牛群を設け、厳し

い出品資格を採用して、いずれの全共

も新たな和牛生産と改良の方向を反映

した区と条件を設定してきました。全

共は設定した目標への到達度を測る一

里塚、登録事業の起爆剤、生産者の一

大イベントであり、地域における改良

成果の検証と今後の和牛の姿を展示す

る場、全国の生産者の代表が互いに交

流する場、和牛を愛する消費者への和

牛生産の生きた情報を発信する場でも

あります。

第十四回全国和牛能力共進会長崎大会

のスタートを告げる発会式は去る六月

二十四日に来賓はじめ長崎実行委員会

からも多数の参加をいただき、盛会に

開催することができました。地域にお

ける育種改良の実証展示という字義通

り、来年十月二十五日から二十九日に

催される佐世保市での最終審査にむけ

て会期が一年四ヶ月にもおよぶ他に類

を見ない共進会であります。第十四回長

崎全共の開催テーマは「和牛維新！

地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな

食文化」であり、テーマに込められた

狙いは、

・効率的な和牛生産と改良に向けた基

盤づくり

・地域の特色ある牛づくり（遺伝的多

様性の維持・拡大）

・生産者と消費者との絆づくり

にあります。すでに出品道府県では候補牛の選定、出品に向けた飼養管理の研修など、地域を挙げて全共への準備が進んでおります。地域の一致団結し

た取り組みを期待するとともに、その活動を全共以後の地域の活性化へ繋げていくことも重要な目的であることを肝に銘じていただきたいと思います。

長崎全共は、テーマに和牛維新を掲げ、十回目という節目の全共であり、宮崎県における口蹄疫の被害、東日本複合大災害を乗り越え、復興に向けての一歩を標す全共でもあります。決意を新たに地域が誇る和牛と生産者、全国の和牛人と和牛を愛してくれる人々が一堂に会し、実りある和牛の祭典が長崎の地で多くの参加者を迎える催されることを祈念しております。

昨年の和牛だよりにも書かせていた

だきましたが、全共の成果として「和牛の分娩間隔の平均を四〇〇日以下に」を合い言葉に、日々の愛牛の飼養管理と衛生対策に取り組んでいただくなっています。

だきましたが、全共の成果として「和牛の分娩間隔の平均を四〇〇日以下に」を合い言葉に、日々の愛牛の飼養管理と衛生対策に取り組んでいただくなっています。

今年度につきましても、優良和牛改良組合の表彰を予定しております。

なお、平成二十三年度実績報告調査に基づく繁殖雌牛（黒毛和種五十六万一千一七五頭）の初産月齢の平均値は、二十五・七カ月（平成二十二年度の平均と同じ）、分娩間隔の平均値は、四一・七日（平成二十二年度の平均は、四五・八日）でした。今後とも改良組合活動を通じた繁殖能力の向上に取り組んでいただきますよう、お願ひいたします。

②子牛生産指數・農家の効果の部  
また子牛生産指數の育種価評価（平成二十二年四月評価）において、組合内の農家による農家の効果が高かつた五組合について表彰を行いました。表彰組合は以下の通りです。

北海道	鵡川町和牛改良組合	②子牛生産指數・農家の効果の部
秋田県	J A秋田しんせい和牛改良部会	また子牛生産指數の育種価評価（平成二十二年四月評価）において、組合内の農家による農家の効果が高かつた五組合について表彰を行いました。表彰組合は以下の通りです。
福島県	大玉村和牛改良組合	
長崎県	上志佐地区和牛改良組合	
宮崎県	佐土原町和牛改良組合	

## 東日本大震災に係わる 支援の御礼について

東日本大震災により被災された和牛生産地への支援のお願いをしましたところ、全国各地から、多くのご厚意と励ましをいただきました。皆様のお心遣いに深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。また、産地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

東日本大震災により被災された和牛生産地への支援のお願いをしましたところ、全国各地から、多くのご厚意と励ましをいただきました。皆様のお心遣いに深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。また、産地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



# 平成二十三年度事業計画について（抜粋）



昨年度は、口蹄疫発生、新燃岳噴火及び東日本大震災など未曾有の大災害により甚大な打撃を被るとともに、景気低迷が続くなか、畜産を取り巻く状況は一層厳しいものとなりました。また、鳥インフルエンザや韓国における口蹄疫の再発など、家畜伝染病に対する衛生管理の徹底等、適切な対応が引き続き求められています。こうした中で、国民への良質な畜産物の安定的な供給、さらには、被災地における和牛生産の早期復興のため、一層の登録事業の充実と効率的な和牛生産を図ることが重要であると考えています。

協会は、引き続き、繁殖性や飼料利用性等、生産性の高い雌牛集団の整備、牛肉の美味しさを求め、必要な指標の開発と普及、活用に取り組みます。第十回全国和生能力共進会において、こうした取り組みの成果を示すために準備を進めます。この一環として、新しい審査標準の施行準備を進めるとともに、登録規程の改正を行います。

さらに、近年では、和牛の国際的な評価の高まりや遺伝子解析技術の進展とともに、和牛の遺伝子（DNA）にも注目が集まっています。生産者自ら、協会では、これまで各研究機関と共同開発してきたDNA解析技術を用

い、和牛DNAデータベースの構築に着手するとともに、その活用方法の検討に取り組みます。

組織運営に関しては、公益法人制度改革に対する協議と対応準備を踏まえ、認定申請を行い、公益社団法人として認定されるよう努めます。また、牛トレーサビリティシステムと登録事業の連携を図ることをもって牛肉の安心と安全に寄与し、わが国における和牛生産と和牛肉に対する消費者の信頼を高めていくことにも努めます。

今年度は、厳しい協会運営が予想されますが、農林水産省をはじめ行政機関や関係諸団体との連携を強め、会員の付託に応える登録事業の展開を推進して参ります。

次に、とくに会員の皆様に関係のある取り組み・研修会等について、お知らせいたします。

○新審査標準の試行について  
登録審査時等の機会を活用し、平成二十四年度からの新審査標準施行に向けて、試行的に新審査標準を適用した審査を実施し、新審査標準の周知徹底・普及に努めます。

○各種遺伝情報の利用について  
遺伝的多様性の検討や経済形質に係わる育種・改良方法の検討を行うため

に和牛DNAデータベースの構築に努め、遺伝子型検査の実施に向けた体制整備も行つてきます。

◇現場後代検定合同調査会  
現場後代検定法の検定調査牛をおもな対象として、合同調査会を開催します。

平成二十四年二月二十日～二十一日

長崎県佐世保市

◇和牛改良組合育成強化研修会  
東部ブロック（福島県） 調整中  
中部ブロック（新潟県）  
中・四国ブロック（岡山県）  
十月二十七日～二十八日

※九州ブロックは七月二十五日～二十六日に宮崎県にて開催いたしました。

## 第十回全国和牛能力共進会発会式開催される

第十四回全国和牛能力共進会長崎県大会の開催まで十三ヶ月余りとなりました。参加道府県でも、全共出品に向けた取り組みが順次進められていることと存じます。

このようなか、六月二十四日、京都市中京区のホテルモントレ京都にて、第十四回全共の発会式が行われました。当日は、来賓、参加道府県関係者等約百十五名の出席により盛会に挙行されました。

これから平成二十四年秋に向けて、「和牛維新！」地域で伸ばそう生産力建築こう豊かな食文化」のテーマのもと、和牛産地の復興へ向けて和牛界が一丸となつて進んでいくための意義ある会となつたことと思ひます。



第10回全国和牛能力共進会役員



第10回全共マスコット  
「かさべこくん」